

トップランナー

2007

第3部「詳報・建設トップランナーフォーラム」

◆信州の木で信州の家をつくる「工房信州の家づくり」
 フォレストコーポレーション(長野県伊那市)は、長野県が打ち出した県産材多使用住宅への助成制度の認定を受け、地元・信州産の木材にこだわった木造住宅「工房信州の家」づくりを展開する。フォレストコーポレーションの小澤仁氏は、常時30棟分の用材をストックできる天然乾燥式ストックヤードを新設。受注拡大を目指す意気込みを語った。

材業者、建設会社・工務店によるグループ化が決め手。「川下側がまとまった規模の地域材の購入を約束し、川上側が安心して生産することで、国産材の流通が活性化される」と小澤氏は主張する。また、「ローコスト追求型の住宅とは違う確固とした理念が必要」と強調。デザインや性能など素材以外の付加価値を高めることで、高価格で受注も一定の需要を確保できるとの考えを示した。

事業の生命線となる用材の安定供給は、林業生産者や製材業者(岩手県)の梅村正裕氏(鈴

▲今回紹介する企業▼

フォレストコーポレーション(長野県) / 中部森林開発研究会(愛知県) / 阿部総業(岩手県) / 内山建設(宮崎県)

◆伐採雑木の多面的活用

中部森林開発研究会(愛知県豊田市)の梅村正裕氏(鈴

6 森林再生分科会

鍵社長)は、造成工事などで発生する樹木廃棄物を100%有効活用する「ウッドチップリサイクルシステム」を確立。法面や舗装、濁水浄化など多様な現場でゼロエミッションを実現している取り組みを紹介した。

廃材を現地で破碎・減容化する大型破碎機を米国から導入。「パークプロア工法」などさまざまな工法を開発し、中部国際空港滑走路などで採用実績を重ねた。竹ノダや竹チップをろ過材に活用する浄化システムは、各方面で重用されている。

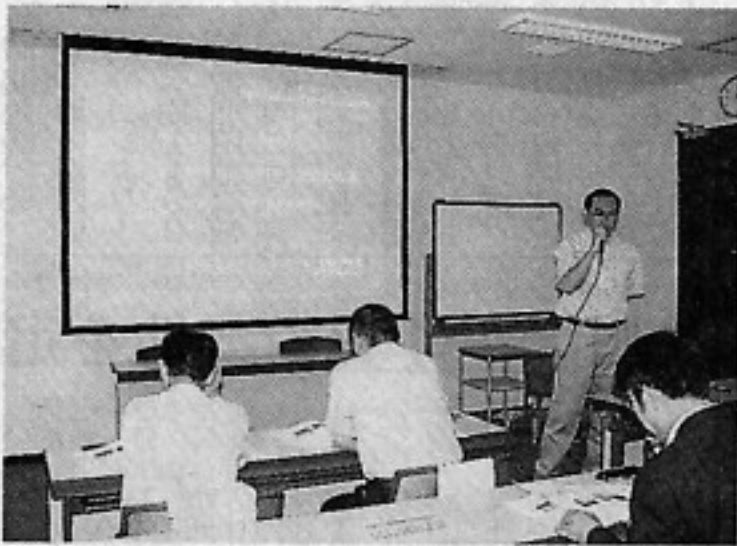
技術力を生かした社会貢献にも目を向け、集中豪雨被災地の復旧支援では大型破碎機をフル稼働。鳥インフルエンザの汚染農場では、石灰の大量噴霧で処理作業に貢献した。

◆木製ペレットでエネルギー

供給分野に進出

阿部総業(岩手県奥州市)の南部智成氏は、自然木チップの有効利用策として取り組む木質ペレット製造事業を紹介した。約7000万円の初期投資でプラントを建設した

ものの、針葉樹、広葉樹、外携しながら、コスト縮減を追求するのが課題と結んだ。◆木質資源の有効活用
 内山建設(宮崎県日向市)の内山雅仁氏は、あくまで建設業を続けながら、新規事業を創出する「道を選択する。や商社に販路を土壌改良剤、木質バイオエタ築いた今も、生ノールの副産物リサイクル、産技術を高める環境共生型ブロックなどの開発・実用化に取り組みながら、その成果を本業に生かす。今後は採算べら、その成果を本業に生かす。一スに乗せるため、同社は松くい虫被害木など「ペレット化を岩手県に提案。中。南部氏は、「ペレットストープの前で酒を飲めば、その良さが分かる」とPRした。その上で、大学などの研究機関と連



阿部総業(岩手県)の南部智成氏
 試行錯誤の連続の末、製品化を実現。さらに生産技術向上に努めていると言

※毎週火・木曜に掲載

高価格でも一定需要を確保

工房信州の家